

第7回セミナー「江戸城本丸御殿のインテリア（意匠）」実施報告

- ◆開催日時 2019年 8月10日（土） 14時00分から16時30分
- ◆開催場所 東京国立博物館 平成館小講堂
- ◆参加者 約24名（会員及び一般市民）

1. 理事長挨拶

理事長 小竹 直隆

当日は、お盆の入り口に当たる土曜日で、かつ最高気温30度を超える真夏日のなか、理事長・小竹によるご参加の御礼から始まり、「江戸・東京歴史文化ルネッサンス・5カ年計画」の活動報告がありました。

また、旧江戸城周辺の歴史や伝統文化や地形を活かした市民活動とゆるやかな交流を進めている主な団体やコミュニティをご紹介させて頂きました。

セミナーやシンポジウム、ワークショップやプロジェクトなど、皆様にご参加いただける多彩な場を創っていくことにより、世間一般の声を江戸城全体整備構想に反映し、一緒に「江戸城ルネッサンス」を創り上げるため、ご参加を呼びかけました。



理事長ご挨拶



「よみがえる江戸城」

理事長小竹から本日の講師である 小粥様 のご紹介がありました。

小粥様は江戸城の第一人者である平井聖先生の下で江戸城のデザインなど高度なレベルの研究をされてこられました。

NHKBSプレミアム「よみがえる江戸城」において美しい江戸城復元CG（協力：昭和女子大学・NHK映像デザイン部）が放送されたとおり、小粥様が平井聖先生のもとで関わった江戸城復元CG建築考証の研究を踏まえ、かつ、最新の研究状況を加えながら、江戸城本丸御殿のインテリア（意匠）とその意味についてお話し頂きました。

2. 講演

テーマ：江戸城本丸御殿のインテリア（意匠）

講師：小粥 祐子 様（東京都公文書館公文書館専門員 博士（学術））

ご講演のテーマは「御殿」お城と言えば「天守閣」を思い浮かべがちですが、実は天守閣が権威の象徴としてこぞって建てられたのは戦国までであり、江戸時代には重要拠点は御殿にシフトしていたそうです。近年では、熊本城・名古屋城をはじめ御殿復元の動きも高まっています。

本セミナーでは「江戸城本丸御殿のインテリア（意匠）」として御殿とそこにおけるインテリアの機能を美しく豊富な資料を基に、ご講演いただきました。



講師：小粥 祐子 様

江戸城本丸御殿はいくつかの部屋からなる建物の群であり、その建物毎に機能があったそうです。本丸御殿には、江戸幕府の政庁と将軍の住居という公と私の2つの機能がありました。

また、図面も300枚以上残っており、更に現場で使われた証拠や、精密な寸法まで残っているそうです。

本丸御殿の意匠には、江戸時代は決まった様式で建てられたため、美しいだけでなく、様々な意味が込められた重要なものでした。

一つには、格式や公私を表していました。例えば、将軍が関わる部分は銅板葺で、家臣がいる部分は瓦葺など封建秩序における権威が如実に示されていました。また、「部屋」には「座敷飾り（床・柵・付書院・納戸構）」という「この建物のなかで最も重要な部屋」と視覚的に表す機能をもった装置が設えられました。

最も格式が高い「建物：大広間」の「部屋：上段の間」にはこの座敷飾り全種があり、建物の格が下がるにつれて省略されました。他にも、「釘隠し」等銑金具のデザインにも屋敷の主や格式が示されていたそうです。公的（政庁）部分と私的（住居）部分でもインテリアには違いがあり、天井の様子はプライベートに近いほど簡素でした。

二つには、標識機能です。本丸御殿で働く人は図面を懐中にいれて障壁画等の意匠を頼りに歩いたそうです。



小粥様ご講演

また、御殿は長期間に亘って使用された建物なので、私的な建物（住居部分）では、時期によって違いがあったり、以前までは1箇所では繋がっていないと思われていた建物の中で複数箇所繋がっていることがわかる資料が見つかったりする等の新しい研究成果があるそうです。

***ティーブレイクタイム（名刺交換、歓談、休憩）** 参加者、役員の懇談の場として好評でした。

3. 当会からのご報告

常務理事・事務局長 内田 久江

近未来の世界遺産を目指し、特別史跡・江戸城跡における歴史的建造物の復元のあり方についての理事長・特別メッセージの報告がありました。詳細は当会ホームページ「情報公開」からご覧ください。

・ 参加者アンケート

ご講演については、大好評で「全く知らない世界で大変面白かった」、「今まで気付かなかった視点での江戸城を紹介してもらい、大変興味がわきました」、「江戸城本丸御殿については、テレビ、映画で断片的にしか知らなかったが、それぞれの位置関係がよくわかった」、「お城といえば天守と思っていたが、御殿こそ重要拠点として活用されていたことにはうなずいた。」、「本丸御殿が表、中奥、大奥と分れているのは知っていたが、その用途により、建物の内装の構造やインテリアまで異なっていることは初めて知ったので大変興味深く勉強になった」との声がありました。一方、「講師の方と話をしたかったのが残念」とのご意見も出され、今後反映させて参ります。

また、当会からのご報告については、「海外から見た江戸城・城下町等全く異なった視点での考察等ありましたら、ご紹介いただくと楽しみです」、「各種プロジェクトの立上げを期待しております」との声がありました。

以上